

2-1

Ver.10.0 新機能

CADPAC-CREATOR Ver.10.0 で追加・拡張・変更・削除された機能の概要をまとめます。
機能の詳細は、オンラインヘルプにてご確認ください。(Ver.9.5 からの差分です)
各機能の詳細は、該当のオンラインヘルプ [****] を参照ください。

I . 2 次元汎用機能

1. 作図ナビ

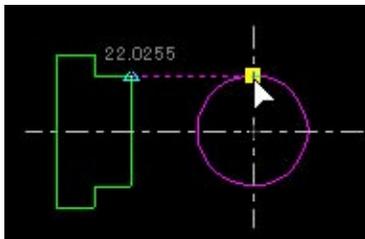
作図ナビとは、マウスカーソルにより目的とする図形を素早く作図するための支援機能をいいます。

マウスによる基準点の検出、仮想補助線の表示、作図グリッドによる区切りのいい数値での移動など、作図ナビを使用するとマウスを使って目的の図形を素早く作図することができます。[基本操作 3/ 作図ナビ]



ツールバーからオンオフ

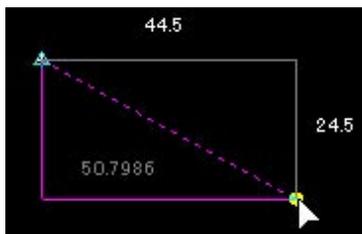
キーボードからは SHIFT + SPACE



作図ナビを使用すると、補助線の作図は不要です。
十字の中心点に円の中心点を指定し、垂直方向にマウスを移動させます。

左側の通過させたいポイントを自動で検出し、基準点となる青色△マーカーが表示されます。

中心線上には基準点と中心線との交点に黄色の■マーカーが表示されます。この点を円の通過点として指定します。



作図ナビのグリッドをオンにすると、マウスの移動は XY 距離・角度がグリッド数値で移動します。

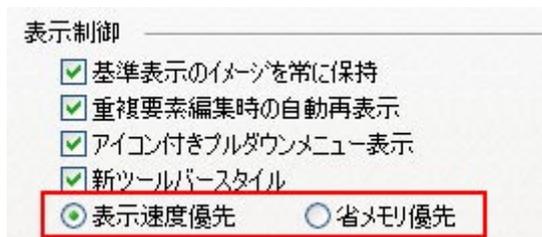
XY 距離のグリッド数値は、5もしくは1単位（ウィンドウの表示サイズにより変動）、角度は5度単位の整数値で移動します。

CTRL + マウス右 ↓ (下向き方向キー)	現在の位置に強制的に基準点を指定
SHIFT + スペース	作図ナビオンオフの切り替え
→ (右向き方向キー)	グリッドのオンオフを切り替える
← (左向き方向キー)	補助線を無限延長線に表示
数値 + 方向キー	現在の基準点から数値分基準点を移動。基準点が端点にある場合は、基準点固定モードのみ有効
. (ピリオド)	基準点を確定

2. 高速表示

本バージョンより、高速表示モードを実装しました。
従来モードとは、[補助 / システム設定 / 表示]で切り替えます。

表示速度優先	<p>要素数の多い図面では、[省メモリ優先]モードの2～5倍の高速表示（パソコンの環境により異なる）を実現します。本システムの初期値です。</p> <p>より多くのメモリを使用しますので、お使いのパソコンに1GB以上の搭載メモリがある環境での利用をお勧めします。</p> <p>表示速度優先モードは、より表示を高速化するため従来版とは別の表示ルーチンを採用しています。このため、線種や線同士の接合部など省メモリ優先モードとは見え方が異なる場合があります。出図すると同じです。SXF表示モードは、未対応です。</p>
省メモリ優先	<p>従来型（Ver. 9.5 以前）の表示モードです。</p> <p>[表示速度優先]よりも表示速度は劣りますが、少ない搭載メモリを有効的に利用し、安定した表示を行います。</p>

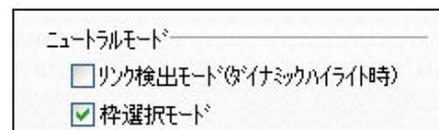


3. ニュートラルモードの編集コマンド起動

ニュートラルモードの編集コマンド起動とは、コマンドが何も選択されていない状態の時（ニュートラル）、要素を枠選択または単要素選択することができ、選択した要素を、マウス右ボタンにより表示されるポップアップメニューの編集コマンドで直ちに実行できる機能です。
[基本操作 2/ ニュートラルモードの編集コマンド起動]



ニュートラルモードのオンオフ設定は、[補助 - システム設定 - 検出 ニュートラルモード]の【枠選択モード】で行います。



4. 簡易出力

本コマンドは出図コマンドの簡易操作版になります。複雑な設定作業を省略することで、手軽に出図することができるようになりました。

[ファイル / 簡易出力]



ドライバと用紙サイズを選択するだけで出図することができます。

5. 塗りつぶし図形、出図

塗りつぶし図形に透明度を指定することが可能になりました。これにより半透明の図形を作図することができます。

[ファイル / 塗りつぶし図形 / 図形作成]、[ファイル / 塗りつぶし図形 / 図形変更]

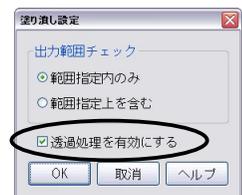


設定ダイアログ

プレビューを見ながら設定することができます。色、濃度に関する設定ができます。コンボボックスの [▼] を右クリックすると設定ダイアログが開きます。

透過処理された図形を出図することもできます。環境設定から塗りつぶし設定を選択すると開くダイアログボックスに「透過処理を有効にする」チェックボックスがあります。

[ファイル / 出図]



6. すべて閉じる

開いている複数の図面を全て閉じることができる新機能です。

[ファイル / すべて閉じる]



7. 出図

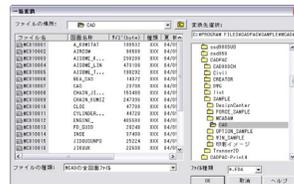
出力する際に枚数の指定ができるようになりました。
[ファイル / 出図]



※プロッタドライバに IMGPrter を指定した場合、出力枚数設定による複数出力はできません。

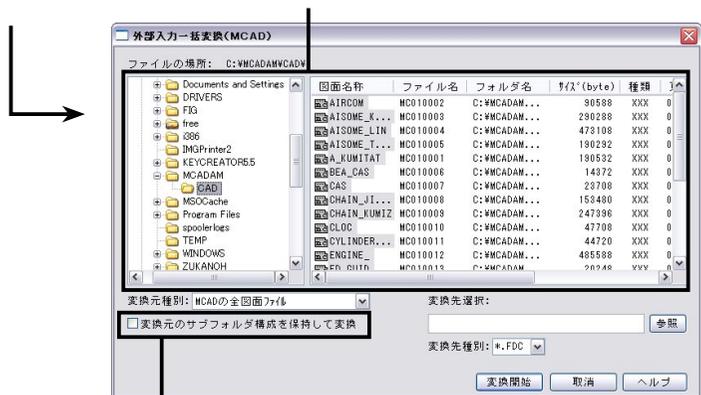
8. MCAD 入力

一括変換ダイアログボックスを一新しました。Windows エクスプローラの操作方法に準拠した他、便利な機能が追加されています。
[ファイル / MCAD]



旧ダイアログ

Windows エクスプローラの操作に準拠しました。ファイル選択では Ctrl+ マウス左、Shift+ マウス左、Ctrl+A での選択が可能です。また、ネットワークドライブに対応しました。



チェックを入れると、サブフォルダの構成を保持して変換できます。

ダイアログのサイズをマウストラッグで変更できるようになりました。

9. MCAD 入力

MCAD 寸法に対して変換精度が向上しました。
[ファイル / MCAD 入力]

10. MCAD 入力

以下の文字制御の形状に対応しました。

可変ボックス、大ボックス、中ボックス、小ボックス、オーバースコア、アンダースコア、ひし形、オーバー・アンダー寸法、バックslash、円弧

[ファイル /MCAD 入力]

11. DWG・DXF 入出力

AutoCAD2008 に対応しました。

[ファイル /DXF・DWG 入力]、[ファイル /DXF・DWG 出力]

12. DWG・DXF 入力

DXF/DWG データの (0,0) 座標を CADPAC の第 1 原点 (左下) に合わせて入力できるようになりました。変換条件設定ダイアログの全般タグに設定項目があります。

[ファイル /DWG・DXF 入力]



13. SXF 入力

SXF データに外部データが貼り付けられている場合、ラスタオプションデータとして読み込むか、外部データとして読み込むか選択できるようになりました。新しく追加された変換条件設定ダイアログボックスから設定できます。

[ファイル /SXF 入力]



14. SXF 出力

外部データが貼り付けられている場合に SXF のラスタとして出力できるようになりました。

また、外部データが埋め込みで貼り付けられている場合、ラスタファイル名を SXF ファイル名と同じ名称にすることができます。機能を有効にするには設定ダイアログボックス「ラスタファイル名を SXF ファイル名と同じにする」にチェックを入れてください。

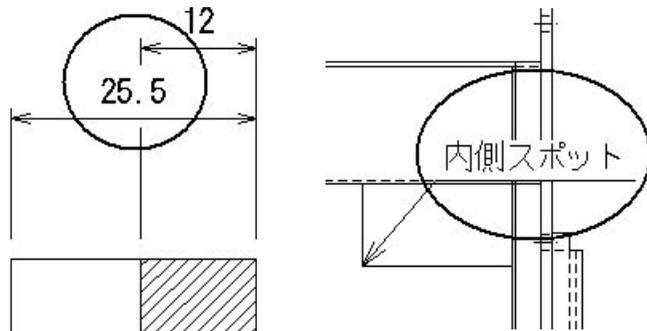
[ファイル / DWG・DXF 入力]



15. 文字隠線

寸法文字 注釈系文字にも隠線処理が可能になりました。

[作図 / 文字記入 / 文字隠線]



16. 転送

これまでお試しコマンドだった「転送 2」が正式コマンドになりました。転送コマンドの色彩編集ダイアログボックスから従来の転送と転送 2 を選択できます。

[編集 / 複写 / 転送]

・1 (通常) : これまでの転送コマンドです。

・2 (高精度) : 2 (高精度) は 1 (通常) に比べ、円、円弧要素の曲面が滑らかになります。また線幅の表示がより正確になり、加えて線幅に関する細かな設定が可能です。



※ 2 (高精度) モードは大量の要素を含む図面を転送する場合、実行速度が低下する場合があります。速度パフォーマンスが著しく低下する場合は 1 (通常) モードを選択してください。

17. 枠選択

枠選択条件設定ダイアログのスタイルリストに、ユーザーが定義したスタイルが表示されるようになりました。

[編集 / 枠選択の概要]



18. 印影イメージ作成

電子捺印で使用できる印影イメージ作成マネージャが実装されました。名前印、データ印の2種類が作成でき、色、線の太さ、フォント、印の形状（名前印のみ）の編集が可能です。作成した印影イメージは保存・呼び出しができます。

[構成 / 電子捺印]



19. ユーザーガイド

プルダウンメニューからオンラインヘルプのユーザーガイドが開けるようになりました。

[ユーザーガイド]



II . 機械オプション

1. 表面性状

これまではお試しコマンドでしたが、本バージョンより正式コマンドとなりました。最新の表面性状規格に沿った記号を作成することができます。
[専用 / 機械記号 / 表面性状]



2. 新・幾何公差

これまでお試しコマンドだった最新 JIS 対応の幾何公差が今回正式コマンドになりました。旧来の幾何公差は [ヘルプ / 旧コマンド] から起動できます。
[専用 / 機械記号 / 幾何公差]、[ヘルプ / 旧コマンド / 旧幾何公差]



↑ 旧来の幾何公差設定ダイアログ

新幾何公差設定ダイアログ



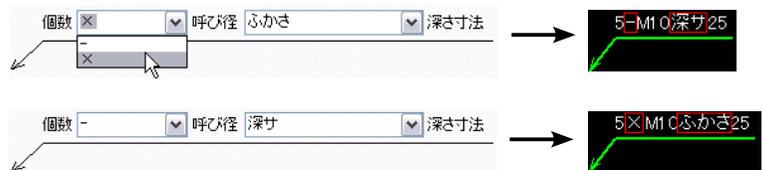
3. 注釈

注釈の表記をユーザーが自由に記述できるようになりました。

[専用 / 機械定型 3/ タップ注釈]、[専用 / 機械定型 3/ 穴注釈]、[専用 / 機械定型 3/ 深ざぐり注釈]、[専用 / 機械定型 3/ 皿ざぐり注釈]



個数、呼び径に掛かる文字を、コンボボックスに入力または選択することができます。入力した文字はコンボボックスリストに登録され、次回起動時から選択できるようになります。



4. 確認変更

機械オプションの部品コマンドの機能の一つ「確認変更」で、現在起動しているコマンド以外の機械オプション要素を選択した場合、そのコマンドに自動的に飛んで「確認変更」ができるようになりました。

対応している部品コマンドは以下になります。

[専用 / 機械定型 1/ 六角ボルト]、[専用 / 機械定型 1/ CAP ボルト]、[専用 / 機械定型 1/ ナット]、[専用 / 機械定型 1/ タップ]、[専用 / 機械定型 2/ なべ小ねじ]、[専用 / 機械定型 2/ 丸小ねじ]、[専用 / 機械定型 2/ 皿小ねじ]、[専用 / 機械定型 2/ 止めねじ]、[専用 / 機械定型 2/ トラス小ねじ]、[専用 / 機械定型 3/ 穴作図]、[専用 / 機械定型 3/ 深ざぐり]、[専用 / 機械定型 3/ 皿ざぐり]

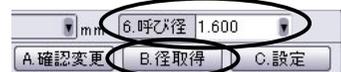


5. 径取得

機械部品コマンドの機能「属性表示」に呼び径を参照し取得する機能が追加され、新たに「径取得」と名称を新たにしました。

図面上の部品にカーソルを合わせ左クリックすると「Y/N 選択ボックス」が表示されますので、ここで「Y」をクリックすると「呼び径」に選択した部品の呼び径が入力されます。

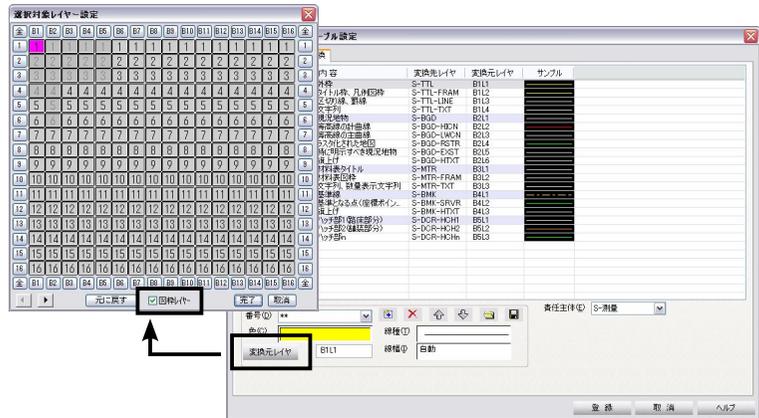
[専用 / 機械定型 1/ 六角ボルト]、[専用 / 機械定型 1/CAP ボルト]、[専用 / 機械定型 1/ ナット]、[専用 / 機械定型 1/ タップ]、[専用 / 機械定型 2/ なべ小ねじ]、[専用 / 機械定型 2/ 丸小ねじ]、[専用 / 機械定型 2/ 皿小ねじ]、[専用 / 機械定型 2/ 止めねじ]、[専用 / 機械定型 2/ トラス小ねじ]、[専用 / 機械定型 3/ 穴作図]、[専用 / 機械定型 3/ 深ざぐり]、[専用 / 機械定型 3/ 皿ざぐり]



Ⅲ. 電子納品支援オプション

1. テーブル設定

これまで電子納品支援オプションの電子納品レイヤーテーブル指定は「図枠レイヤー」を、変換元として選択することが出来ませんでした。Ver.10.0 より、変換元に「図枠レイヤー」をレイヤーテーブル指定できるようになり、指定があった場合は「スタイル一括変換」実行時に「図枠レイヤー」要素を適切なレイヤー名称で出力できるようになりました。
[オプション / 土木系 / 電子納品支援 / スタイル一括変換]



図枠レイヤーチェックボックスをオンにすると、図枠レイヤー要素がレイヤーへ出力されます。

2. スタイル一括変換

「元図面と同じフォルダ」チェックボックスを追加しました。オンにするとCAD 元図面フォルダが電子媒体ルートフォルダになります。オフ状態ではこれまで通り個別に設定します。
[土木専用 / 電子納品支援 / スタイル一括変換]



IV . JIS 機械パーツ

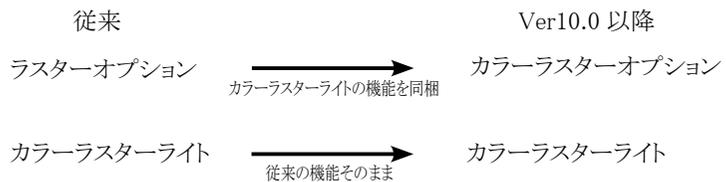
1. 部品点数 総部品点数を 53 万点に拡張しました。
[オプション /JIS 機械パーツ]

V . SolidWorks インターフェース

1. SolidWorksI/F SolidWorks2008 に対応しました。
[オプション /SolidWorks(SW) インターフェース]

VI . ラスターデータ

1. カラーラスター 従来の「ラスターオプション」に「カラーラスターライト」の機能が同梱され、名称が「カラーラスターオプション」と新たになりました。
[オプション / ラスター / ラスターオプション / カラーラスターオプション・カラーラスターの比較]、[オプション / ラスター / カラーラスター / カラーラスターオプション・カラーラスターの比較]



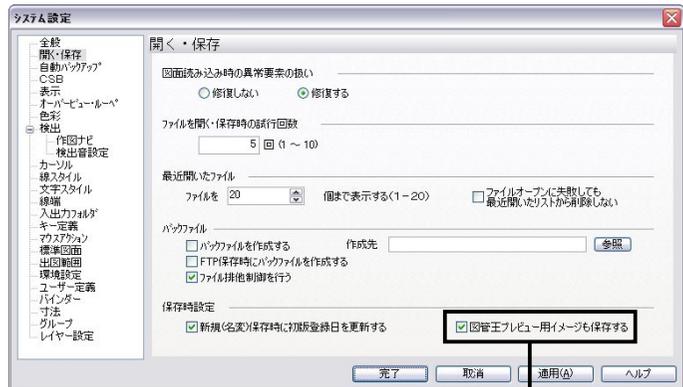
VII. 図管王

1. 図管王

XCDF ファイルを任意のフォルダに作成可能になりました。

2. システム設定 開く・保存

図管王プレビュー用のイメージファイル（XCDF ファイル）を CADPAC のファイル保存と同時に進行することができるようになりました。
[補助 / システム設定 / 開く・保存]



チェックをオンにすると同時保存ができるようになります。

2-2

Ver.10.0 で廃止となった機能

CADPAC-CREATOR Ver.10.0 で廃止となった機能をまとめます。
Ver.9.5 からの比較です。

FDA, FDB での保存

Ver.10.0 から FDA, FDB での保存は廃止となりました。
FDA, FDB ファイルを開くことはできますが、図面を編集後に上書き保存もしくは新規ファイルとして FDA, FDB で保存することはできません。
FDC, FDD, FDE ファイルでの新規保存となります。

- * FDA, FDB ファイルは、10 年前に Windows 版が作られた時の図面構造体となっており、その後に機能追加された構造を保持することが困難になりました。また今後の機能拡張も踏まえ、Ver.10.0 より廃止とさせていただきます。

バインダー管理

バインダー図面のシート管理は、Ver.9.5 まではツールビューとダイアログボックス系の 2 系列ありました。
Ver.10.0 より、バインダー管理は「ツールビュー」に統一され、ダイアログボックス機能は廃止となりました。

外部入出力

Ver.10.0 より、外部入出力で以下の機能が廃止となりました。
外部出力 = Staiton 出力、ARC 出力、JWC 出力、MPP 出力
外部入力 = ARC 入力

FUSION 3D 連携

CADPAC-FUSION 3D は 2007 年 12 月末をもって製品サポート期間が満了しました。